

アカスジカスミカメ

成虫は年4回程度出現し、イネ科雑草の主に穎花内で卵越冬する。越冬世代成虫が6月上旬頃から、第一世代成虫が7月中旬、第二世代成虫が8月中旬、第三世代成虫が9月中旬にそれぞれ出現する。イタリアンライグラスやイネ科雑草の穂を吸汁するが、イネが出穂すると水田にも飛来して吸汁加害する。

成虫は体長5mm内外、体色は黄緑色で前胸背から膜質部の太い縦条は橙赤色を帯びている。

ここ数年で県内全域に生息域が拡大し、本県の主要な加害種となってきた。

防除は、周辺のイネ科雑草の管理と本田内での薬剤防除が主体となる。詳細は（「斑点米カメムシの防除対策について」）参照。



写真 アカスジカスミカメ成虫